

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ① 互いに切磋琢磨し学び合い高め合う喜びを身につける
 - ② 生活習慣を正し、健やかな心身を保つ態度を身につける
 - ③ 地域体験から地球へと広がる探究の楽しさを身につける
 - ④ 社会貢献と自己実現を図る進路選択の態度を身につける
 - ⑤ 地域の歴史や文化を尊重し継承する態度を身につける
 - ⑥ 広い視野を持ち、多様な人々と協調する態度を身につける
- 上記①～⑥を教育目標とし、次に掲げる方針に基づいて教育を行う。
- ア 自他を励まし、互いに教え合う教育活動に取り組む
 - イ 健全な生活習慣や心身を鍛える教育活動に取り組む
 - ウ 地域や地球の課題を探究する教育活動に取り組む
 - エ 社会貢献体験や自己洞察する教育活動に取り組む
 - オ 地域の歴史や文化に共感する教育活動に取り組む
 - カ 表現力や発信力を高め、国際感覚を養う教育活動に取り組む

2 学校の特徴

本校は、富山県簡易農学校として明治27年に創立して以来128年の歴史を有し、地域の期待を担い、生徒の進路目標の実現と社会性の育成を目指した教育活動を実施している。平成22年に南砺総合高等学校井波高等学校と、令和2年に南砺福光高等学校と再編統合し、現在は、普通科、国際科、農業環境科、福祉科の4学科で構成されている。

自然と文化・歴史の豊かな南砺の地で学ぶ本校の生徒は、素直で真面目、学校や教師を信頼し、学習活動をはじめとした諸活動に一生懸命に取り組んでいる。

普通科は、大半の生徒が国公立大学を中心とした4年制大学への進学を目指していることから、高い学力と思考する態度の育成を図りながら、2年次より探究コース、文系、理系の類型別授業編成を実施するなど、進路希望に沿った学習指導を行っている。国際科は、世界や地域で活躍できる人材育成をめざし、2年次からHuman Science（文系）、Natural Science（理系）の2類型で、確かな語学力とグローバルな視野を養成している。農業環境科では、体験的な学習や学校農業クラブ活動などを通して、専門的な知識・技術と社会性、実践力を身につけ、2年次からは野菜、草花、土木の3類型に分かれて専門性を磨き、希望の進学又は就職へと繋げている。そして県内唯一の福祉科は、高齢者・障害者・児童の福祉についての専門的な知識・技術を幅広く習得し、福祉社会に貢献できる人材を育てている。平成26年入学生からは介護福祉士国家試験（筆記）の受験ができるようになり、昨年度まで5年連続全員合格を果たしている。

3 学校の現状と課題

令和2年度に南砺福光高校と再編統合して以来、ようやく本年度に3学年とも4学科がそろい、総数740名の生徒が共に学校生活を送っている。系統の異なる4学科が、伝統を引き継ぎながら融合し、新しい南砺福野高校を創っていくことになる。

また、2年前より新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの学校行事が中止あるいは縮小開催となるなど、従来の教育活動に支障をきたしている。その間においても、生徒の学びや活動が止まることのないように学習指導や行事の実施にあたっては工夫を凝らしてきており、今後も感染症予防対策を講じながら、できるだけ従前の形に近い教育活動が実施できるよう一層努力していく必要がある。

この大きな2つの課題を乗り越え、南砺市の高校として、生徒・保護者から信頼され、地域の誇りとなる、魅力ある学校にするために、2022年度は特に、(1)ICTの活用やALなど学習指導法の研究及び若手教員の指導力の向上、(2)正確な情報提供と面談を通しての心身共に健康な福高生の育成、(3)進路目標実現に向けた丁寧な進路指導と資格取得の推進、(4)自主態度と思索する心の育成、(5)保護者との連携強化と開かれた学校づくりの5点について、重点的な取り組みを行うこととしている。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針、及び計画	
1	学習指導	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域の絶えざる研修と、教育の本質に即しての人間性の啓発、涵養 ・生徒の実態を把握し、能力に応じて自学自習できる素地を養うことによる学習意欲の向上 ・46分7限で質が高く効率的な授業となるよう、教員、生徒の意識の高揚
	重点 -1-	計 画	<p>①生徒の基礎・基本の定着と授業の理解度、学習意欲の向上を図るために、<u>タブレットPCなどのICTを活用した授業や、アクティブラーニング等を取り入れた授業、教育クラウドを活用した学習指導などの研究を推進する。特に、若手教員を中心に互見授業や校内外の研修などを推奨し、教科指導法の改善・工夫に努め、指導力の向上をめざす。</u></p> <p>②3年間を見通した学習指導計画に基づいて、学習シラバスを作成・配布し、生徒に短期的・中期的・長期的な目標を明示することによって、自主的で計画的な家庭学習習慣を身につけさせる。</p> <p>③生徒の生活実態を把握するための実態調査や個別面接に努め、適切な助言や指導を行うことによって、問題点の早期解決を図る。</p> <p>④農業環境科や福祉科では、<u>資格取得や各種検定合格に向けた学習を通して、学び方や考え方を身につけ、課題解決に主体的に取り組む態度を育てる。</u></p>
2	学校生活	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を自主的に身につけるための環境づくり ・社会的な規範やマナーを遵守する態度の育成
		重点 -2-	計 画
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康で安全な生活を営む能力と態度の育成 ・教育相談に関する支援力の向上 ・美化活動を積極的に実践し、自らの学習環境を整備する態度の養成
	重点 -2-	計 画	<p>①自己の健康観を確立し、進んで健康の保持増進に努めることができるように、<u>個別指導、集団指導・各種たよりによる啓発や健康相談など、あらゆる機会をとらえて指導する。</u></p> <p>②<u>家庭や関係機関と連携を図る</u>とともに、関係教職員が情報を共有し、協力して対応する。また、相談室の機能を高め、効果的に活用する。</p> <p>③ 学年、学科、教科、各分掌が連携し、身の回りの整理・整頓や環境美化及び安全に関する指導を行う。</p>

項 目		目標・方針、及び計画	
3	進路支援	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の人生観に基づく将来像の構築 ・将来設計や進路希望の実現に向けた課題設定と、その解決に取り組む態度の涵養
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 3年間を見通した進路指導計画を策定し、各学科、各学年での取り組み内容を明確にする。 ② <u>様々な進路行事を開催したり、面接指導を充実させたりすることによって進路意識の高揚を図り、目標を早期に設定して学習意欲の向上に繋げる。</u> ③ 大学入学共通テストや英語4技能試験などの大学入試問題研究を進め、それに対応した進学指導の構築を図るとともに、自主的・計画的な家庭学習の実施など、生徒の自律性を高める指導法を工夫し、進路目標実現に向けた学力の向上を図る。 ④ インターンシップ等を通して就業意識を高め、間違いのない選択に導く。 ⑤ <u>農業環境科や福祉科は、進路を意識して、意欲的に資格取得に臨ませる。</u> ⑥ <u>保護者会や進路懇談会等を通して、学校の進路指導の方針について保護者の理解と協力を得る。</u>
	重点 -3-	重点 -3-	重点 -5-
4	特別活動	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動を通して心身の調和のとれた人格の陶冶 ・個性の伸張とともに、協働による学校生活の活性化を図る態度の育成
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、各行事の目標を明確にするとともに、活動内容を精選し、質の高い効果が得られるように、全教職員の協力体制を確立する。 ② ホームルーム活動では、生徒が学校生活に適応し、よりよい人間関係を形成しながら自らを高めていくための心を育てる。 ③ 生徒会活動では、生徒が活動の主役となる指導の工夫をしたり、リーダーの養成を行うことによって、自主的な活動の活発化を図る。 ④ <u>部活動では、日頃の活動の充実とともに、強化練習会や合宿などを通して活動の活性化を図り、競技力の向上を図る。</u>また、部活動を通して、精神力を鍛え、他者への心遣いを大切にするなど、心の成長を促す。
5	その他	目 標	・読書を通じて思索を深め、情操豊かで主体的に行動実践できる態度の育成
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 読書会等の学年の読書指導、各教科に係る作文・論文コンクールへの応募指導等を通して、読書の体験を増やし、読書に対する興味・関心を高める。 ② 図書館の教育情報センターとしての機能を充実させ、「<u>啓明館だより</u>」「<u>はばたき</u>」発行などの広報活動を活発に行うことなどによって、<u>図書館利用の動機づけを行う。</u> ③ <u>利用しやすい図書館をめざして、蔵書の整理を行う。</u>
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動に対する保護者の理解を促し、保護者との連携・協力による生徒の健全育成 ・地域との連携・交流を推進し、開かれた学校づくりの促進
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎月曜日を保護者への情報伝達の日を設定・周知し、「<u>学校だより</u>」の発行等を通して<u>学校の教育活動に対する保護者の理解を一層深める。</u> ② 普通科・国際科の地域課題探求、農業環境科の共学農園、福祉科のボランティア活動、また、生徒会活動や文化部活動など、様々な形で地域活動に積極的に参加し、地域との交流を深め、体験活動の機会を増やす。
	重点 -4-	重点 -5-	

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習指導 (教科指導)	
重点課題	教育クラウドやタブレットPCを活用した授業方法の実践研究 互見授業による教師の指導力向上とアクティブ・ラーニングの推進	
現 状	・新教育課程や観点別評価の導入に伴い、実践を具体的に進めていく。 ・若手教員が多く赴任してきており、授業の進め方や授業課題の与え方などに不安を感じている教員も多く、経験のある教員から有効な助言や指導が希求とされている。 ・4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。全生徒がタブレットPCを1人1台持つことを効果的に生かす指導研究が求められる。ICT機器を活用した授業を行っている教員を中心に効果的な活用方法を実践研究するなど、活発な相互研修の実施が望まれる。	
達成目標	① 教育クラウドを活用した学習指導やタブレットPCを活用した授業を行った教員の割合	② 互見授業および校内外の研修会等に、教員一人あたりの参加回数
	① 80%以上	② 4回以上
方 策	・ICT機器の研修会を行い、基本操作を全教員ができるようにする。 ・各教科で授業での活用方法や問題点などを研究し、活用を推進する。 ・研究授業を行い、検討を通して指導スキルを高めていく。	・授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。 ・若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。 ・新教育課程やICT・新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活 (生徒指導・健康管理)	
重点課題	福高生として誇りを持ち、自ら考え、判断し行動する資質の育成	
現 状	・怠惰による遅刻は減少しているが、心身の不調により遅刻する生徒は増加している。 ・スマホやインターネットなどを長時間使用することで、生活のリズムを崩す生徒が増えてきている。 ・感染症予防への具体的対策として、身近な学習環境を整備するなど対応力を育成する必要がある。	
達成目標	① 心身の不調により、遅刻が3回以上の生徒に対する面談の実施	② 生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	① 面談の実施率 100%	② 年間10回以上
方 策	・生徒の出席状況を確認し、教育相談室、学年、教科担当との連携を密にして生徒支援に努める。 ・SNSの利用について、自律を促す取り組みを実施する。	・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	総合的な探究の時間や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福） 生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福） 検定資格の取得に向けた意識の高揚と合格者数の増加（国・農） 受験者全員の介護福祉士国家資格取得（福）	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化していく生徒達に対して、個々に見合った対応など指導の工夫が必要である。 ・広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探すことは困難であるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 ・国際科では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーション、エッセイ、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を積極的に行っている。また、4技能の伸びを測定するために、毎年全員 GTEC を受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 ・農業環境科では、農業技術検定・危険物取扱者は全員、測量士補・造園施工管理技術検定は類型別に全員を目標に学習し、余力のあるものはさらに各自で資格取得に挑戦しているが、各資格において知識が定着しない生徒もいる。 ・福祉科では、平成 26 年度入学生より、在学中（3年の1月）に介護福祉士国家試験を受験することが可能となり、平成 28 年度より国家試験を受験している。合格率は、平成 28 年度卒業生が 96.6%、平成 29 年度から令和 3 年度の 5 年間 100%を達成している。福祉科 3 年間の学びの集大成として国家試験合格を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための指導・支援を継続していく必要がある。 	
達成目標	① 以下の観点での生徒の満足度 ・先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 ・進路の面接がよく行われている。 ・進路に関する情報が豊富である。 ・進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 ・総合的な探究の時間は進路を考える上で役立っている。	② 卒業時に英検 2 級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科） ③ 全国に通用する各種資格・検定に 3 つ以上取得の生徒の割合（農業環境科） ④ 資格試験の合格率（福祉科）
	① 80%以上	② 100%（国際科） ③ 100%（農業環境科） ④ 介護福祉士国家試験 100%（福祉科）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 ・進路に関する集会や面接を充実させる。また、総合的な探究の時間を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話等で、進路意識の高揚を図る。 ・目標を持って資格試験に向かうよう指導法を工夫し、学習習慣を身につけさせる。 ・関連科目の担当者同士の連絡を密にし、学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、適切な課題等に取り組みさせる。 ・介護福祉士国家試験の過去問から出題傾向を把握し、生徒の実態に応じた授業改善を行う。 ・土曜特別講座における外部講師による受験対策を行う。

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -	
重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）
重点課題	自主態度と思索する心の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の 95%が部活動に加入し、精力的に活動を行っている。県レベルを超える大会等に出場する団体数はここ数年 15 団体を超えている。今年度、2クラス増で、新入部員も増え、ますます活発に活動を行うことが期待される。 ・コロナによる、部活動の活動時間の縮小や、部活動停止の中、各部活動が感染症対策を工夫しながら活動し、活動内容の充実に努めている。 ・学校行事を始めとする特別活動もコロナの影響で縮小中止が余儀なくされる中、なるべく実施できるよう、工夫を凝らしている。 ・読書指導では、読書会を行うことで、普段読まないジャンルの本を読む機会を増やすように努めている。昨年度は6クラスがHRでビブリオバトルに取り組んだ。終了後に行ったアンケートでは、92%が「楽しかった」、79%「読みたい本があった」と回答した。読書への興味を引き出せる活動であり、今年度も取り組む。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。
達成目標	① 県レベルを超える大会等への出場団体数
	① 15 団体以上（全国大会レベル5団体以上）
方 策	② 情報発信 ③ 蔵書の除籍・廃棄
	② お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年 14 回 ③ 図書原簿のデータ化の完成
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも、活動できるように工夫し、部活動の充実・活性化を図る。 ・外部講師招聘や情報収集、様々な通信機器の利用等で、指導法・練習内容のレベルアップ、生徒のモチベーションアップを図る。 ・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進め、廃棄する。

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -	
重点項目	その他（保護者や地域との連携）
重点課題	保護者と連携・協力のもと、開かれた学校づくり
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のためPTA総会や大学視察研修会などの実施が困難な状況が続いている。このためPTA役員の方々と話し合い、密にならないような工夫をして with コロナでのPTA活動を模索していく必要がある。 ・広報誌や情報ツールなどを活用して、保護者の方々にPTA活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る必要がある。
達成目標	① ホームページの情報更新や内容充実
	① 各種委員会への役員出席率 70%
方 策	② 学校について関心の高揚
	② 福高だよりの発行 8回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 ・保護者アンケートをとり、関心度を調べる。（1, 2 学期保護者会時）